

今後のあり方について

今後の区民評価委員会の運営や行政評価システムの運用に当たっては、以下の委員会意見を参考にして改革・改善を期待する。

1. 次年度の委員会運営等への意見・要望

(1) 委員会運営方法について

評価対象事業が前年度の15事業に比べて3事業少ない12事業であったこともあり、前回短さを感じた討議時間について今年度は程良い時間であった。

事前説明会や、進め方等、スケジュールも細かく設定されていたので事前準備をすることができよかった。開催日数は多すぎない参加日数で、参加する日程を調整しやすかった。開催時間はできれば午前中からを希望するが、長時間にわたる会議であり休憩等をはさまなくてはならないようであれば、午後開始でも無駄がなく良い。

時間は、少しタイトな感じではあったが、概ね適切であった。開催日数及び開催時間についても、概ね良好であった。基本資料が、第1回の会議で提出されていたため、事前の調査が行いやすかった。

短期的にまとめて議論することで、当該事業への意識や集中力が途切れずに、理解を深めながら参加することができてよかったと思う。

運営方法や議事進行は、時間配分や段取りもスムーズで、全体的によかったと感じた。特に、担当課との質疑応答や、委員会としての評価整理の議論に、一定程度の時間を割けたことがよかったと思う。

土・日や夜間開催などにより、多様な区民を対象とできるよう委員募集を検討してもらいたい。

当日欠席委員の評価の取扱いについて、採用すべきでないと考えている。委員の最終個人評価は、当日の担当部署の説明や質疑応答並びに他の委員の発言等を総合して、最終的に行っている。当然、審議前の個人評価と審議後の最終個人評価は異なる場合が多い。よって、当日欠席委員の評価は採用すべきでない。その委員の評価は無いものとし、参加メンバーのみの個人評価で行うべきである。

最初の説明時に、区が行財政改革の概要や今後の方針を代表者や幹部の方々に語ってほしい。その方針をもって、判断していきたい。もちろん、その方針通りに私たち区民委員が動くものではないが、墨田区が行財政の中で選ばれた事業を自分の方針で是々非々を決めていく中で、行財政の方向や方針は、判断のよりどころになるので、ぜひお願いしたい。それが、私たち区民委員の知見を決めていくベクトルのひとつになると考える。

(2) 評価事業の選定方法について

昨年度の考え方を引き続き踏襲し選定基準も明確であることから、選定に関して客観性は担保されていると思う。ただ、選定されなかった事業について何も見えてこないため、補助金の全体像を把握することが出来ず、選定された補助金がその中でどのような位置づけにあるのかを理解することが出来ないのが残念である。透明性確保のためにも、選定プロセスの見える化についても検討いただきたい。

評価事業は多岐にわたっていて偏ることなく、興味深く参加できた。

どの事業も、時代の変遷とともに評価が変わってきたものであり、判断が難しい事業が多かった。しかし、それはそのまま、今評価すべき理由でもある。その点では、事業の選択は適切であったと感じる。

選定基準が、補助金の性質と、事業年数 金額 財源（全額区費）を根拠に設定され、客観的で妥当だと感じた。一方で、今年度は、計 12 事業を抽出し、見直しを行っているが、今回の議論を鑑みても、上記の ~ に該当する補助事業は、12 事業にとどまることなく、今後の見直しが必要と感じる。

審議対象事業数に対して時間が少ない感じがする。それが、事前質問等にも影響を与え、評価委員会全体を忙しく感じさせてしまう。委員の満足感を削ぐ要素にもなっているのではないか。

ある特定の NPO や組織団体が、別名で色々な補助金をもらっている場合は、関連する補助金業務を全て選定すべきである。色々な補助金が、ある特定の NPO 等を支援する資金に使用されている可能性があるため、一つだけの補助金事業からの評価では不十分であり、関連する全ての補助金事業を総合的に評価する必要がある。

単発のものより、すみだまつりの説明にガラス市との連携を説明者が発言されていたように、面的な流れを理解できた。その場で同時に開催したりする関連した事業がある場合、あるいは相対するような取組み例えば、事業団と他の組織の取組みがあれば、並べて、コストパフォーマンスを比較するのも評価しやすく、区民に対して説明がし易いと考ええる。

(3) 事業概要資料や添付資料等について

事前質問については、前年度の経験を踏まえ計画的に実施され、評価委員会の前に回答を拝見してから委員会に臨むことができた。ただ、個人の受けた感じとして、前年度に比べて全体的に担当課からの説明に積極性が感じられなかった。回答内容を補足する客観的な資料等の提供も極端に減少し、回答欄に記載されている内容だけで判断せざるを得ない状況が多かったと感じる。

事業目的と、実績・成果・効果指標が必ずしも関連性のあるものばかりではなく、目的に適合しているかについての評価が非常に難しく感じた。補助金の評価をより適切に実施するためにも、成果・効果指標の設定を今一度見直して、適切に事業の成果を把握できるものに改善を図っていただきたい。

評価対象は“事業”だが、上位の施策に対する事業の位置づけや貢献度といった観点からの説明がなく（政策評価シートの配付のみ）、中には施策との関連性が薄いと思われるものもあり、評価に活用することの難しさを感じた。説明の中でこの点にも触れて頂ければ、事業が区の施策に対する貢献度についても把握したうえでの評価が可能となると感じた。

資料や添付資料は簡潔で非常にわかりやすかったが、後日提出のものも多く評価シート等も事前にプリントアウトして用意してもらえると良い。

事務事業評価は、相変わらずアウトプット指標が多かった。アウトカムが、何であったかが理解できない事業が散見された。職員の皆さんの更なる意識向上を期待したい。各委員で事業に対する認識が異なるため、行政報告書のように事業のアウトラインや現状が分かる資料が必要と感じた。

各事業において、一定の形式でまとめられており、全体を通して読みやすいという点はあったが、どの事業においても情報不足、という印象を受けた。

各担当課において、評価のための情報整理や資料作成といった日常業務は少ないと思うが、行政評価が定着しつつある現状をふまえ、今後は、PDCA サイクルの実効性や有効性を高めるための情報整理・情報開示が進むことを期待する。

配布される資料を変更する事務作業を考えると、現在の資料はそのまま継続しつつ、A4一枚の概要図を作成し、全体像が把握してもらおう工夫をしてもらいたい。貴重な時間を節約できると思う。なお、概要図は、一度作ればそれほど修正されるものではないので、負担にならないし、他の利用も可能と考える。ただし、概要図はシンプルなものであることが重要である。

資料に文字だけのものが多く、過去から現在そして未来というように、A4一枚程度で図表も入れての概要が欲しい。また、民間や学生も当たり前のようにパワーポイントで説明しているが、そのような区民がわかる表現を用いて欲しい。文字になっているものでもイメージを描くのが難しいときもある。役所の文書に慣れていない民間委員の方には辛いものがあると思う。

(4) その他

目的が既に達成されている補助事業や、社会のニーズが変化してきている中でそれに対応しきれていない補助事業が散見されている。社会のニーズに柔軟に対応した区政を行っていくためにも、時代の変化とともに行政の関与が真に必要なのは何かを常にしっかりと考え、区民等の自主運営に任せられる部分から行政は撤退する明確な仕組みを構築していくことも必要であると感じた。

事業単体では、D評価がつくもののそれ以前の、母体である事業体の見直しが、本来必要と思われるが、それは今回の審議対象ではないために、判断が難しいものがあった。福祉事業団、開発公社、管理公社、社会福祉協議会、公設市場などは、どの自治体でも、時代の変化に対応すべく、課題になっているので、きちんとしたロードマップを作って方針を出していくべきと考える。

区民委員の皆さんのご意見が、生活経験や具体事例に基づく発言、今後の見直しにむけた建設的な発言が多く、大変参考になった。各担当課から出される実績値や成果については、アウトプットとアウトカムの整理が不十分なものが多く、今後の改善に期待する。

区民から見た評価（墨田区特有の事業もある）が必要であるから、会長、副会長も含め、全ての委員を墨田区民から選ぶべきである。短期間での委員会審議、委員も事務局も大変だったと思う。もし、可能ならば、審議期間にもう少し余裕がある方が良い。

企画・行政担当の職員の方は、部局と委員会との間でのご苦労が多く、よくまとめられていると思う。ただ、私たちが区民への説明責任を果たすために説明職員の表現の工夫、コミュニケーション能力の向上に事前の研修会などで取り組んで欲しい。私たち区民委員を含めてお互いにここを磨かなければ、委員会の、あるいは行政評価という取り組みの向上は見込めないように思える。

2. 各委員の感想 ～委員会に参加して～

鏡 諭

全体に良い議論が出来たと感じている。委員と職員の皆様に、感謝を申し上げる。今回の区民行政評価委員会においても、区民委員の皆様の区政に対する信頼と高い見識に関心をした。公共哲学の祖、ハンナ・アーレントは、公共が担うべき課題は、非収益性であると説いた。時代の変遷の中で、かつては非収益であった事業が、法制度や利用者の変化等により、収益が上がる事業となったものも少なくない。その中で、公的補助の意味もまた変わって来るのである。それは、まずは現場担当者が常に、真摯な姿勢を持ち、事務事業の評価に当たって欲しい。特に、事業を見直す場合、既得圏域にいる団体や個人の生活にどのような影響を及ぼすのかは、現場の担当者でなければ分からないからである。熱き心と冷めた洞察力をもって、対応していただければ、さらに区民に信頼される行政となると考える。

河上 牧子

議論を通じ、墨田区の育んできた地域社会の土壌の厚さや、下町らしさ、ものづくりのまち墨田としての気概を改めて感じた。補助金制度が、墨田区独自の地域社会や産業基盤を育んできた実績があったと感じた。一方で、補助金の今日的なあり方としては、多くの事業で、区民と行政の関係性を見直しが必要で、自治や協働のあり方として、時代に即した役割分担が不可欠である。特に、補助金事業からの自立に向けた支援の必要性、補助事業終了年の設定、補助率引き下げや支出根拠の明確化、各事業で効率化に向けた支出内容・活動方法の見直しが課題である。さらに、区の現状や将来像を踏まえ、財源振り分け根拠となる区民との合意形成が重要。将来像は、区民が生活の中から実感できるようなチャンネルで、生活者目線での共有のための工夫(対話)が必要。財源振り分けの合意を得た上で、補助金事業も個別事業の見直しだけでなく、優先順位をつけ、大幅に支援する分野や事業があってもいいと感じた。

高橋 晶子

補助金支出による成果が当初の狙い通りに、かつ効率的に達成されているかどうかを検討するには、その目的の明確さ、さらに具体的な成果の把握が非常に重要であります。所管のご担当者からその点も含めてご説明を頂くことで、より詳細に理解することが出来ましたが、現状ではご説明が加わらないとなかなか理解しがたい面もあると言わざるを得ず、果たして区民のみなさんにどこまで理解を深めて頂いているのだろう、という疑問が湧きました。より適切な事業成果の把握と評価の実施は、ひいては区政の透明化にも繋がりますので、成果指標の精度向上、説明の充実に今後も継続的に努めて頂くことを期待しています。

大嶋 龍男

今回の評価も、以前と同様、墨田区民目線、地域活動の現状目線を重視して評価を行った。自分が良く知っている事業とあまり知らない事業があり、評価するのに苦労したが、自分としては満足できる評価だと思っている。我々委員会の評価は全般的に厳しい評価となっているので、区役所担当者は、驚くかもしれないが、この様な見方（評価）もあることを考えながら、自分たちの事業を再度見直し、事業廃止を含め、墨田区全体の財源有効活用を図って頂きたい。

清水 勇行

各補助事業の一律削減も限界が来ることを考えると、是非とも PDCA サイクルの中で、当委員会での評価結果を活かして欲しいと思います。特に、「効率性」に着目しただけでも、委員 7 名で 12 事業を評価した総数は 84 となりますが、「○」「△」「×」の評価が全体の 94 % (79/84) を占めています。補助事業がスタートした経緯がそれぞれ違い、一律の対応が難しいことはあるものの、すぐに着手出来るものから改善することを期待します。なお、鏡会長のスムーズな委員会運営により、何とかついて行くことができました。ありがとうございました。

萩原 紀子

多岐にわたる事業で、それぞれとても興味深く参加させて頂き、勉強になりました。事前にご提出して頂いている事業の課題の中で、見直すべきと考えている事業が多くあり、指摘するまでもなく、ご担当の方々も気づいている事が多いと感じました。時代背景が変わり、価値観も多様化している現代において税金も無駄なく区民に公平に還元され、価値ある事業に使って頂きたいと改めて思いました。勉強不足も多々ある中で、率直な一区民としての意見を聞いていただき、またご質問にも丁寧にお答えいただいた区役所の方々にお礼を申し上げます。今後もより墨田区が活性化し、よりよい墨田区にブラッシュアップし続けて欲しいと思います。

牟田口 雄彦

説明する職員の説明の表現の工夫、コミュニケーション能力の向上を願います。思い込みによる説明、他所管のものは知らない。第三者による評価はしていません、など自分の所管のものは例年のとおりで大丈夫という表現は困ってしまいます。客観的な指標や目標を数値で表したものを提示しての説明が説得力を持つものと考えます。区民評価委員は、区民を代表して生活者の視点でとらえています。例えば、「まつり」は、地域の神社のお祭りとは区民まつりの違いは何なのか、客観的に区税を使って良い、それを区民に説明できる指標がないと区民委員としての役割が果たせないと考えています。